

2018 年度統計関連学会連合第 2 回理事会・組織委員会 議事録

日 時：2018 年 9 月 13 日（木）15:10 - 16:30

場 所：中央大学・後樂園キャンパス 6 号館 3 階 6301 教室

出席者：

【学会連合理事】

応用統計学会	岩崎 学, 中西寛子
日本計算機統計学会	足立浩平
日本計量生物学会	大橋靖雄, 松井茂之
日本行動計量学会	岡太彬訓
日本統計学会	赤平昌文, 西郷 浩
日本分類学会	栗原考次 (理事長)

【連合大会実行委員会】 鎌倉稔成 (2018(委員長)), 酒折文武 (2018(副委員長)), 竹村彰通 (2019)

【連合大会運営委員会】 笛田 薫 (2018), 中川重和 (2019)

【連合大会プログラム委員会】 汪 金芳 (2018), 桜井裕仁 (2019)

【JSD 編集委員長】 青嶋 誠

幹事 石岡文生, 酒折文武, 富田 誠

組織委員会・報告

1. 2018 年度連合大会報告

(1) 鎌倉実行委員長より, 特に大きな問題はなく滞りなく終了した旨の報告があった。

酒折副実行委員長より, 以下の報告があった。

- ・ 一番大きい A 会場で, 始めの方にマイクトラブルによりマイクの使えない時間帯があった。
- ・ 複数の会場で機種との相性が原因と思われる HDMI の接続トラブルが発生したが, 変換アダプタで対応した。
- ・ 受付会場の誘導に際し, ベルトリールパーティションを用いた。これが初日の混雑軽減に非常に効果的であった。
- ・ 展示室に参加者を誘導させるために, 15 時~15 時半に展示室でコーヒブレイクを設けた。これが功を奏し, この時間帯の展示室は大変に盛況であった。これの実施に際し, 専属スタッフの配置・電源の容量や設置場所確認など, 入念に準備を行った。

(2) 笛田運営委員長より, 以下の報告があった。

- ・ 今大会の参加者は過去最高の来場者数であったが, 大きなトラブルもなく無事に終えた。
- ・ 来場者の詳細は, 事前登録者 733 名, 招待者 55 名, 当日参加者 204 名の合計 992 名であった。(後に招待者に 1 名の重複が判明したため, 合計 991 名に訂正)
- ・ 展示ブースの来訪者も過去最高であった。座長の先生に展示室へ誘導するようなアナウンスをお願いするような工夫が効果的と思われる。

(3) 汪プログラム委員長より、以下の報告があった。

- ・ チュートリアルセッションに関して、事前参加申込数は 136 名であった。また、担当講師の属する組織のビジネスに関連するテーマであったため、資料に詳細な内容を掲載できず、例年よりも資料の枚数が少なかった。また、セッション中の録音と撮影を禁止するアナウンスを繰り返し行った。
- ・ 市民講演会に関して、事前参加申込数は 196 名であった。
- ・ 一般セッションは 43 (発表数：229)、企画セッション (デモセッションを除く) は 25 (発表数：104)、デモセッションは 1 (発表数：6)、コンペセッションは 5 (発表数：26)、プレナリーセッション 1 (発表数：1)、特別企画セッション 1 (発表数：5) であった。
- ・ 並行セッション数について、当初は 7 パラレルを予定していたが、開会式やプレナリーセッションとの兼ね合いのため、最終的には 8 パラレルとした。
- ・ 本年度は試行的に英語版ウェブページを作成したが、以下の理由から、英語版ウェブページは無くても実害はないと判断し、報告集原稿提出の段階から英語版ウェブページを簡素化 (例えばプログラムの英語化は行わないなど) した。
 - 英語翻訳のための代金を支払っているにもかかわらず、ページ作成を依頼した ISS から、英語版キーワードの提出、およびページに掲載する英語表現について大変細かいところまで確認を求められるなど、大変な時間と労力を要した。
 - 英語版ウェブページからの講演申込は国内からの 2 名のみであった。
 - 国外からの英語講演については、オーガナイザーが講演者を取りまとめてくれていた。
- ・ 委託業者 ISS の業務に関して、種々の意見交換がなされた。
- ・ 連絡なくプログラム委員会に不参加、コンペセッション当日に会場に来て審査を行わない、などといった委員がいた。
- ・ コンペセッションの審査に関して、一部の連合理事の先生にも審査を行って頂いた。また、発表者をセッションに割り振る際に、男・女や博士・修士がなるべくばらけるよう配慮した。
- ・ デモセッションの際の並行セッションが多いため、調整や工夫が必要ではとの意見があった。

組織委員会・議案

1. 2019 年度連合大会各委員長について

- ・ 実行委員長に竹村彰通氏 (滋賀大学)、運営委員長に中川重和氏 (岡山理科大学)、プログラム委員長に桜井裕仁氏 (大学入試センター) とすることが承認された。
- ・ 栗原理事長より、12 月開催予定の次回理事会・組織委員会までに、各学会から運営委員およびプログラム委員を 1~2 名選出頂きたい旨の依頼があった。
- ・ 竹村 2019 年度実行委員長より、2019 年度大会の実行副委員長に笛田薫氏 (滋賀大学) を推薦したい旨の提案があり、承認された。
- ・ 運営副委員長およびプログラム副委員長については、各委員長とも協議しながら、12 月までに候補を選定する。
- ・ 岡太理事より、行動計量学会は連合大会の直前に大会を開催する事から、負担軽減のために各委員の選出者数を 1 名にしてもらいたい旨の依頼があり、承認された。

2. 2019 年度連合大会の運営方針について

- ・ 栗原理事長より、2019 年度の大会も引き続き 4 日間で開催したい旨の提案がなされ、承認された。
- ・ 竹村 2019 年度実行委員長より、来年度は滋賀大学彦根キャンパスにて、9 月 8 日（日）をチュートリアル・市民講演、9 月 9 日（月）～9 月 12 日（木）を本大会とすることが提案され、承認された。

連合理事会・報告

1. JJSD について（報告事項）

青嶋編集委員長より、JJSD の現状について次の通り報告があった。

- ・ 2018 年 9 月初旬に Vol.1 No.1 を発刊した。論文数は、全部で 13 本（序文、原著論文 2 本、特集序文および招待論文 9 本）となり、ページ数的にも理想的な量となった。非常に順調に進んでいる。
- ・ インパクトファクター取得に向けて、毎号特集を組む。
- ・ Vol.1 No.2 は 2018 年 12 月、Vol.2 No.1 は 2019 年 6 月、Vol.2 No.2 は 2019 年末にそれぞれ発刊予定。
- ・ 論文投稿数はこれまで通算 97 本であり、月にすると 7～8 本のペースである。出版後 2 年以内のインパクトファクター取得を目指す。Accept 率は現状で 30%弱。
- ・ JJSD の査読期間は 2 ヶ月としているが、その期限の遅延対策として次の方策を行った。
 - Editorial manager から coordinate editor にリマインドメールが送られるようなシステム運用に変更。
 - 一部の associate editor に査読依頼が集中している。各 associate editor の現在請け負っている論文数は確認できるので、そこを配慮してハンドリングを行ってもらおうよう coordinate editor に依頼した。
 - 査読者のハンドリングに関して、各学会選出の associate editor で、Editorial manager に自身の専門分野をまだ登録していない方がいる。査読者の割当を迅速に進めるために、各理事に対し改めて登録依頼のアナウンスしてもらいたい旨、依頼がなされた。
- ・ 今後の計画として、投稿論文の種別に survey article の追加を予定している。

連合理事会・議案

1. JJSD について（審議事項）

栗原理事長より、JJSD に関して以下の通り依頼・提案があり、審議の結果、承認された。

- ・ 冊子体については Springer より 100 冊程度までは献本が可能と言われている。各学会で冊子体が必要な場合は、その必要数を連合の方に連絡してほしい。
- ・ 購読価格および冊子体の連合会員購読価格について、次年度は今年度と同額とする。各学会で購読希望がある場合は、取りまとめて連合の方に連絡してほしい^(*)。
- ・ 発刊に係る年間費用（2,500,000 円）の消費税、およびシステム導入の初期費用 200,000 円＋消費税については、連合本体から支出する。

- ・ 発刊に係る年間費用（2,500,000 円＋消費税）の次年度以降の支払いに関する各学会の負担額等については、引き続き検討する。

(*)後日、Springer の方で直接対応するとの連絡があった。

西郷理事より、現在、日本統計学会から国立国会図書館に寄贈している JJSS 欧文誌に継続して JJSD を寄贈すべきかとの質問があり、寄贈の主体・方法も含めて検討することとした。

2. 各学会選出の委員について

- ・ 栗原理事長より、連合の事業委員会に関して、各学会から委員変更の連絡がなかったことから、現状の委員で引き続き事業委員会を進めたい旨の提案があり、審議の結果、承認された。また、各学会選出の委員に変更がある場合は連絡してほしい旨の依頼があった。
- ・ 栗原理事長より、新設した広報委員会（旧 web 委員会）は、JJSD を始めとした連合に関わる広報活動の強化を担う旨の説明があった。また、広報委員に石岡文生氏（岡山大学）を連合理事会から推薦したい旨の提案があり、承認された。

3. JSS からの報告（ISI 東京大会記念奨励賞募集について）

西郷理事より、2019 年にマレーシアで開催される WSC において、国内の若手研究者（申請時で 35 歳以下）を対象に ISI 東京大会記念奨励賞（副賞 20 万円）を出すこととしたので、応募を促して頂きたい旨の依頼があった。申請書は日本統計学会の HP からダウンロードできる。（締切は 2018 年 11 月 30 日）

4. その他

- ・ 足立理事より、2019 年 8 月 13 日～15 日に同志社大学今出川キャンパスで開催される国際学会 DSSV2019（主催：IASC，共催：日本統計学会，統計数理研究所，日本計算機統計学会）において、統計関連学会連合に後援に入って頂きたい旨の依頼があり、審議の結果、承認された。後援に際し、金銭的な負担は発生しないことが確認された。
- ・ 2020 年度の連合大会を東海大学（実行委員長：山本義郎氏）で開催したい旨の提案があり、審議の結果、承認された。
- ・ 次回の理事会・組織委員会は、日程調整の上、12 月中旬～下旬に開催する。